

# 異質性の時代、 新たな知識を創造する時

広島大学長 田中 隆 莊



卒業生・修了生諸君、卒業おめでとう。

平成三年度卒業生・修了生を送るにあたり、諸君に学士、修士の学位の授与及び専攻科修了の証書を授与できることは、広島大学にとって、最も大きな慶びである。諸君のこの門出にあたって、一言、所懐を述べて、饒はげとしたい。

人間はいま、世界史の大きな転換点に立っている。世界的に拡大する独立・分離の願望、絶えた時の無い地域的紛争、増大する貧困と格差、激動する国際政治等々で、人間社会の根幹が地球規模で動揺している。

この動揺の根源をなすものは何か。人間及び社会の異質化であると考え。元来、生物は本来の性質としてheterogeneous、すなわち異質性を増しつづける存在である。生物進化のこの作用については、人間も例外ではない。人間も長い歴史の間に、異質性を増大しつづけて、多種類の生活様式や多層の価値基準を生み、多元・多様な文化を創出してきた。分

離独立願望の根強いindividuality、すなわち個の現象を見ると、異質性の時代が到来していることを知るのである。

異質性の時代に私達はどうか対応すべきか。地球規模の相互依存が進行している現在、意識の抜本的変革という課題が生じている。価値観が、画一から多様へ、同質から異質へ、全体から個・人権へ、競争・対抗から協調・共存へ転換している。新しい価値観は新しい知識を必要とし、新たな学問を呼び起こす。異質性を明らかにし、異質体系の探究が必要である。国際社会にあつては、例えば、異文化との協調を構築するための確実で根拠のある事実や実態、すなわち新しい知識が必要であり、産業経済にあつては、様々の生活様式との調和について、新たな知識が求められる。また、科学技術にあつては、自然観が基本であり、自然の一部としての人間の在り方が問われる。異質性の時代をイメージすれば、調和を理念とし、バランスを原則とする時代と

いえよう。しかもその土台の人間としての規範、すなわち、誠意と信義が心に深く刻まなければならない。

歴史の転換点に遭遇したこの緊張感を、自らのものにするのができるのは諸君である。時代を進取し、知識の新たな創造に進んで取り組んでもらいたい。学問に基づく知識資産の蓄積は、どんな時代でも人類共通の大切な課題である。諸君には、自分の専門を拠りどころにして、辛抱強く、謙虚にこの課題に取り組んでもらいたい。

広島大学は諸君と共に歩みつづける。諸君が世界のどこにいても、何事につけて母校を思い、活躍することを祈っている。また、いつでも母校を訪れてくれることを待っている。

最後に、諸君をここまで支えて下さった家族を始め、関係者すべての方々に、諸君と共に、深く敬意と感謝の気持ちを表わし、祝辞とする。